

## 社会への啓発活動と社会への教育のあり方に関する研究

研究分担者 朝居 朋子 藤田医科大学保健衛生学部看護学科 教授  
研究協力者 佐藤 毅 東京学芸大学附属国際中等教育学校 教諭

### 研究要旨：

①第30回国際移植学会(TTS2024)で”Creating Ethical Dilemma Teaching Materials on Organ Transplants for Junior and High School Education”を講演し、参加者と情報交換を行った。②関西大学初等部6年生57名に対し倫理的ジレンマ教材の授業を実施した。③東京学芸大学附属国際中等教育学校3年生115名に対し倫理的ジレンマ教材の授業を実施した。

この授業実践により、倫理的ジレンマ教材の有効性が示唆された。倫理的ジレンマは、生徒の思考を揺さぶる内容であり、臓器移植という深刻な内容であっても意見交換というスタイルで受け入れやすくなる。「楽しい」という言葉が出たことは、生徒にとってはこの授業が有意義であったことであり、授業の成功を示したと言える。倫理的ジレンマ教材により、生徒の思考を揺さぶることができる。思考を揺さぶることにより、生徒はより深く考え、自論を発展させることができる。他者の意見と多様性を尊重する風土作りが、倫理的ジレンマ教材の授業の成功には不可欠である。

### A. 研究目的

教科書の内容に沿った知識伝達型の授業の後には、社会における課題を把握し、その解決に向けて自分の考えをまとめ、他者の考えを理解し、そのうえで選択・判断する力、さらに自分の考えを言語化できる力を育む必要がある。なぜならば、社会人として生きていく上で、主体的に考え課題解決できる力が不可欠だからである。この力は、経済産業省の提唱する社会人基礎力の考え抜く力(Thinking)に相当する。そのため、学校において、主体的思考力と課題解決力を育成する授業実践は重要である。

臓器移植は、倫理的諸問題をはらみ、価値が不一致であり、価値的判断が分かれる題材である。価値的判断とは、社会的事象に対して、「善い・悪い」「望ましい・望ましくない」などというように、社会的事象を価値的に評価する判断である。従って、社会的価値の対立や葛藤が存在する臓器移植は、ジレンマ教材に適している。

そこで、生徒の思考を重視する授業実践のために、臓器移植に関する倫理的ジレンマの教材開発を行なった。本研究では、その内容を国際学会で発表し、初等教育で授業を実施し、フィードバックを得ることを目的とした。

### B. 研究方法

我々は2023年度、倫理的ジレンマ教材として、

「匿名の原則」、「募金と渡航移植」、「Happy-Happy(Win-Win)理論(臓器売買)」、「オプトアウトへの制度変換」、「親族優先提供」について50分の授業案を作成した。実際に、「募金と渡航移植」、「オプトアウトへの制度変換」、「親族優先提供」を用い、初等教育で授業を実施し、フィードバックを得た。

(倫理面への配慮)

医学研究倫理審査委員会 HM24-452

### C. 研究結果

#### 1. 国際移植学会報告

##### Creating Ethical Dilemma Teaching Material on Organ Transplants for Junior and High School Education

Tomoko Asai<sup>1</sup>, Takeshi Sato<sup>2</sup>.

<sup>1</sup>Faculty of Nursing, Fujita Health University, Toyoake, Japan; <sup>2</sup>Health and physical education, Tokyo Gakugei University International Secondary School, Nerima, Japan

Introduction: Organ transplantation presents ethical issues and value conflicts, making it an ideal dilemma material for school education. It stimulates students to consider their opinions and exchange ideas. Therefore, we have developed a teaching system that we have already tested with 3rd-grade junior high school students in Japan.

Methods: For ethical dilemma discussions on organ transplantation, we selected five themes: (1) The anonymous principle; (2) Overseas transplant by charity; (3) Organ trafficking; (4) Opt-Out; and (5) Priority donation to relatives. Our standardized lesson format addresses: (i) The ethical dilemma theme; (ii) Class objectives; (iii) Key discussion points; and (iv) Class time schedule. The lessons fit within 50 minutes, the typical duration of junior and high school classes. Our current congress presentation focuses on "The anonymous principle" lesson that we already tested with students.

Results: "The anonymous principle" concerns whether the deceased organ donor family and the organ recipient should be allowed to know each other. That parties want to know each other and express their gratitude is only natural, and some countries allow such meetings under set conditions. However, there are potential risks of stalking, resentment, and financial requests, and therefore, in Japan, organ donation is anonymous. Nevertheless, independent of official health system regulations, social networking services (SNS) may enable parties to find each other anyway.

The lesson on "The anonymous principle" is organized as follows: (1) A 5-minute introduction by the teacher on organ transplants, donors, and recipients; (2) 15 minutes for self-consideration and small group discussion about the perceptions by the donor and his/her family, and the recipient and his/her family; (3) A 10-minute lecture on ethical issues and slippery slope theory; (4) 15 minutes for self-consideration and class discussion about pros and cons of breaking the anonymous principle, including the introduction by the teacher of letters of gratitude by organ recipients; (5) 5 minutes for a final wrap-up and writing down opinions using a worksheet.

Using this protocol, we discussed "The anonymous principle" with 3rd grade students at a junior high school in Japan. From their feedback, we conclude that the students deeply engaged, and seriously gave their opinions on the ethical dilemmas. We were impressed by the depth of the students' thinking, their willingness to listen to the opinions of others, and the transformation of their opinions.

Conclusion: Teaching materials on ethical dilemmas can foster the students' ability to grasp complex societal issues, consider how to solve them, make understanding-based choices, and verbalize their thoughts. We believe that such discussion on ethical dilemmas in organ transplantation will benefit the students intellectually and spiritually, and lead to a deeper awareness in society of organ transplantation issues.

Health Labour Sciences Research Grant(23FF1001).

第30回国際移植学会(The Transplantation Society 2024 Congress)で倫理的ジレンマ教材について報告した。

セッションでは、ポーランドの医療機器販売会社が16年に渡り、若年層への臓器提供の普及啓発を行っていることが報告された。ポーランドでは他のヨーロッパ諸国よりも臓器提供件数が少ないため、若年層の理解を高めることで臓器提供件数の増加を目指していた。

ディスカッションセッションでは、若年層への普及啓発が政府主導で行われているのかの質問があった。セッション後に、ブラジル、トルコの参加者(移植医療関係者)と話したが、学校教育の重要性は認識しているものの実際には行われていないようであった。

## 2. 関西大学初等部授業報告

6年生 57名に対し、臓器移植に関する授業及び倫理的ジレンマ「募金と渡航移植」を行った。生徒の感想の一部を下記に記す。

- ・元気な僕が死んだら0(ゼロ)になる。病気で苦しんでいる人も亡くなったら0(ゼロ)になる。でも僕が脳死になって臓器をあげたことによって、病気の人が1(イチ)になるかもしれない。
- ・死んでも誰かに貢献できるって素晴らしい。このような気持ちが増えると、臓器移植が一般的な医療になるかもしれない。
- ・5億円は一人にだけではなく、たくさんの人の命をすくべき。
- ・はじめ、募金をする、でしたが、色々リスクを聞いてしなくなった。レシピエントはたくさんいるから、解決方法は思いつかないけれど、よく知るべきだと思った。
- ・すぐに行動するのではなく、考えてから行動に移した方がいいと思った。
- ・私は募金をしない方を選びます。海外に行かなくても日本で普通にできるようになればいいと思います。
- ・ただ募金をすればいいと簡単に思えなくなった。

## 3. 東京学芸大学附属国際中等教育学校授業報告

3年生115名に対し、オプトアウト制度と親族優先提供の授業を行った。

授業に対する生徒の関心度は5段階で5が52名、4が52名、3が4名、2が1名、1が0名で、ほとんどの生徒が関心を持っていた。授業後、意見の変化は、

親族優先提供に対しては10名、オプトアウト制度に対しては15名であった。

この授業を受けて、日頃からのちについて考えることの大切さを実感した生徒が多かった。この授業ではディスカッションをして意見交換をするが、その成果として、下記が示された。

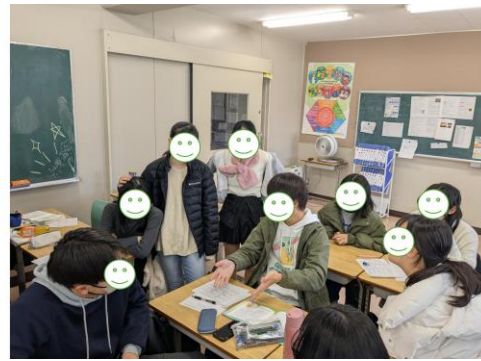
- ・授業の姿勢として多種多様な意見を尊重していたので、周りの意見に流されずに、自分の意見を考えることができたのがよかった。
- ・自分とは異なる意見の人と話せて様々な意見を知ることができて、あらためて考えるための意見の参考になりました。
- ・臓器移植の様々なジレンマについて知ることができた。前に家族とも話す機会があり、親がどう思っているか共有したことがあるので少し経ったらまた今の意見などを共有したいと思えた。
- ・具体例を含みながら知識を入れることができたためたくさん考えられてよかった。
- ・臓器移植というテーマはとても複雑で人によって考えることが違うけれど、まずは現状を知ってから他の意見を持つ人や家族との話し合いの場を持つ大切さを改めて感じました。
- ・他の意見の人との交流などを通して、より考えを深められた。
- ・あった方がいいか、ない方がいいかなど、普段は「へー」で終わることについて深く考えることが出来たのですごく良かったです。
- ・色々考えることが多く、自分の中でまだ整理がついていない状態でした。
- ・沢山の新しい知識がしれた上、コミュニケーションスキルを使って自分とは全く意見の違う人と意見交換でき、新たな視点で考えられました。
- ・まだ無知なことも多いけど、この手の情報をより多く仕入れて、自分の意見を持てたら良いと思った。
- ・臓器移植をするかしないかという視点で考えたことはあっても、制度そのものの良し悪しを考えたことはなかったので、ためになったと思う。
- ・実際に様々な状況での考え方の違いを知らることができてよかった。
- ・深刻な内容だけど話し合いなどを含むことでかなりわかりやすくなっていた。興味深い内容だった。
- ・友達と意見交換をする時間があって、親族

優先やオプトイン・オプトアウトに対する新たな視点に気付くことが出来たり、自分の考えを深めることができた。

・道徳で倫理的な問題に関して学んだり考えたりするのは楽しいと思った。

上記にあるように、他者との意見交換が非常に有意義であり、それにより生徒は自論をさらに深

めることができていた。



### D. 考察

授業実践により、倫理的ジレンマ教材の有効性が示唆された。倫理的ジレンマは、生徒の思考を揺さぶる内容であり、臓器移植という深刻な内容であっても意見交換というスタイルで受け入れやすくなると言える。また、「楽しい」という言葉が出たことは、生徒にとってはこの授業が有意義であったことであり、授業の成功を示したと言える。各生徒の意見を尊重し、多様性を受け入れることで、主体的に考え問題解決を図る力を得ることができる。他者の意見と多様性を尊重する風土作りが、この授業の成功には不可欠である。授業実践者は、このような風土作りをすることが欠かせない。

我々は、小学6年生に対しても授業を行った。初等教育において何年生が妥当かは議論があるところだが、倫理的ジレンマ教材は小学校高学年にも有効であることが分かった。生徒の反応を見ても、熟考してから行動することの大切さや、募金という行為を単純にとらえず深く考えることの大切さを実感していたことがわかる。

このような教材の開発を、今後諸外国とも情報共有をして広げていきたい。ポーランドの発表にもあったように、多くは臓器提供件数を増やすことを目的としている。しかし、我々の教材は、提供件数の増加ではなく、生徒の思考力の向上、深化である。それには、臓器移植の制度や提供件数と移植件数のギャップといった現状を伝えるだけでなく、その背景にあるものを自身で深く考える必要がある。オプトアウト制度や親族優先制度、募金をして渡航移植をせざるを得ない日本の現状など、社会の課題を生徒自身が考えることが良い。本教材は、このことができる教材である。

2024年度 16 回生 道徳の記録(3学期) <佐藤先生>

授業のテーマ

移植医療 — 倫理的ジレンマ —

授業の内容 (22 の内容項目 C10 / 自分で考えた 22 の内容項目)

振り返り

☆今後につながる ATL スキル

国際教育	<input type="checkbox"/> 国際理解	<input type="checkbox"/> 道徳探究	<input type="checkbox"/> 人間理解
10 の	<input type="checkbox"/> 探究する人	<input type="checkbox"/> 知識のある人	<input type="checkbox"/> 考える人
学習者像	<input type="checkbox"/> 信念を持つ人	<input type="checkbox"/> 心を開く人	<input type="checkbox"/> 思いやりのある人
	<input type="checkbox"/> コミュニケーションが得意な人	<input type="checkbox"/> 挑戦する人	
	<input type="checkbox"/> ランランスのとれた人	<input type="checkbox"/> 振り返りができる人	

<親族優先>

はじめ  
 あった方がいい or なくない ⇒ **意見交換後**  
 あった方がいい or なくない  
 【改善点があれば】

<オプトイン/オプトアウト>

はじめ  
 オプトイン or オプトアウト ⇒ **意見交換後**  
 オプトイン or オプトアウト  
 【改善点があれば】

3 年 組 番 氏 名 \_\_\_\_\_ 提出: 次の保健時

## E. 結論

倫理的ジレンマ教材により、生徒の思考を揺さぶることができる。思考を揺さぶることにより、生徒はより深く考え、自論を発展させることができる。他者の意見と多様性を尊重する風土作りが授業の成功には不可欠である。

## F. 健康危険情報

無し

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

朝居朋子,佐藤毅,横田裕行:臓器移植における倫理的ジレンマを題材にした中学校・高等学校の教材開発 ―「主体的・対話的で深い学び」でVUCA時代を生き抜く力を修得する―. 移植59,3,283-9.

### 2. 学会発表

- ASAI Tomoko,SATO Takeshi:Creating Ethical Dilemma Teaching Materials on Organ Transplants for Junior and High School Education. Transplantation 108(9S):, September 2024. | DOI: 10.1097/01.tp.0001066568.82514.a5
- 佐藤毅.「いのちの授業」って難しい?～学級づくりから授業実施まで～.いのちの教育セミナー2024今もとめられる「いのちの教育」～臓器移植を題材とした授業の可能性～(岐阜聖徳学園大学羽島キャンパス・Zoom).2025.3.8.

## H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

### 1. 特許取得

無し

### 2. 実用新案登録

無し

### 3.その他

無し